

天国への手紙

●ラジオネーム…ライムサワー

●タイトル…一匹狼

社会に出て30年近くが経ち、

若い頃お世話になった上司や先輩の訃報に接することが多くなってきたなあ、
と思っていた時、あなたの訃報を聞きました。

あなたの仕事の仕方は、組織に馴染まない、いわゆる「一匹狼」で、
出世とは無縁な人でした。

でも、お客様や取引先をととても大切にし、ビジネスマナーを重んじ、

私のような学校を出たての若者にも敬意を持って接してくれる方かたでした。

あなたに、仕事の仕方を直接教えてもらったことはありません。

ただ、仕事に対する考え方を聞かせていただいたことは何度もありました。

一番印象に残っているのは、

「僕は職場では、自分より目下の人は必ず『くん』付け、『さん』付けで呼ぶ。
相手がどんなに若い人でも呼び捨てにしたりはしない」と

おっしゃっていたことです。それ以来、私もそれを実践させてもらっています。

あと、大きな声で元気のいい挨拶。

入社してきたときの「おはようございます！」と、仕事を終えて帰るときの「お先に失礼します！」。

あの大きな声のあいさつは、学校のチャイムみたいなもので、職場の始業・終業のメリハリを作り出していました。

おとし、街でバッタリお会いした時は、

横からいきなり大きな声で「やあ！久しぶりっ！」と挨拶されたもので、思わず飛び上がってしまいました。

現役時代と変わらない大きな挨拶を聞いて、嬉しくなったものでした。

あの大きな挨拶は、いまだにマネできません。

結局、あの時がお会いした最後になりました。

訃報を聞いたとき、これらの思い出が一気に溢れてきました。

一匹狼だったあなたらしく、葬儀も何もやらず、

ご親族の手で生まれ故郷に戻っていったと聞きました。

月並みな言葉ですが、

最後まで自分らしい生き方を貫かれたあなたを尊敬しています。

リクエスト…レターメン「ミスターロンリー」